日刊 動労千葉

84. 12. 27

No. 1828

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二―八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二(22)七二〇七

'84年を闘いぬいて

各支部の副支部長さんにきく

その6 最終回

労働組合の真価が問われた一年間

銚子支部　多田　正雄

臨調・行革に名をかりた数々の国鉄労働者攻撃の中で、最も許せないものは「三本柱」の導入と「六〇・三ダイ改」の大要員合理化攻撃です。これは労働運動を根底から否定するものです。

それゆえ、われわれは労働組合の基本原則にたち、全力で闘ってきた一年間でした。

われわれの職場は、「本部」派の組合員が存在する数少ない職場の一つですが、この一年間の闘いをみてもわかる通り、彼等が権力にすり寄り、当局に率先協力して得たものはなんだったのでしょうか。動労「本部」は基地統廃合に協力し、「余剰人員」を、一時帰休、出向へとかりたて、労働者を売り渡し、労働組合の原則をふみはずしてしまった。

それゆえに、労働組合の真価が問われた一年間ではなかったかと思います。

銚子支部は、全組合員の協力により、動員、行事等々の参加が前年を大きく上回り、特に三・二五、一〇・一〇三里塚闘争は五割動員をかちとり、団結力を強化しました。

この組織力と団結力で、八五年の正念場を闘いぬく決意です。

三里塚と結合した職場生産点の闘いを強化しよう

木更津支部　滝口　誠

今年もあと数日で一年が過ぎます。「八四年を闘いぬいて」ということで感想を書いてほしいとの要請がありましたが、思いついたまま書いてみたいと思います。

この一年、政府・自民党ー反動中曽根内閣の軍事大国化・改憲、侵略戦争に向っての「戦後政治の総決算」攻撃と真向から対決する労働運動という視点で、私たちは闘いぬいてきました。

国鉄労働運動解体攻撃が嵐のごとくわれわれの頭上に襲いかかってきている時、この攻撃と真向から闘うことなく当局の先兵となり、国鉄労働者に屈服をせまっている動労「本部」革マルの姿に怒りを感じます。

もう労働組合ではない、労働者の敵だということを一人ひとりが肝に銘じなければならない。

このような輩を追放・一掃しなければならない。

また、われわれにかけられている「分割・民営化」、首切り「三本柱」をはじめとする攻撃、「60・3ダイ改」、検修基地における交B廃止・交検仕業の回帰キロ延長等々の攻撃に、われわれはさらに一層の団結力を発揮して闘いぬく決意です。

三里塚と結合した職場生産点での闘いをさらに積み上げ、85年を闘いぬこうではありませんか。

臨調・行革粉砕！　三里塚ジェット闘争勝利！

焦点 '84動労千葉 6

「三里塚―国鉄」決戦勝利へ 路線と体制を確立強化

85 団結旗開き

一九八五年一月十二日（土）午後一時～
千葉県労働者福祉センター大ホール

第一部　基調報告　午後一時～二時三〇分
第二部　連帯のあいさつとアトラクション　午後二時三〇分～五時

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！